

皆さま、こんにちは。
府中教会、アンドレアです。

「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に納めなさい。」ファリサイ派の人々とヘロデ派の人々に、イエスはこう答えました。ファリサイ派の人々は、どうしたらイエスを罠にかけられるか、長い間真剣に考えていました。そして「ローマ皇帝に税金を払うのは律法に反しているかどうか」という巧みな質問を思いついたのです。

イエスは、この問題をきっかけとして、巧妙な答えだけではなく貴重な教えをも語ってくれました。「皇帝に属するものは皇帝に、神に属するものは神に、それぞれ納めなさい」。何がどちらに属するのかわ、イエスははっきり分別しています。ただ、イエスは、問題はほかのところにあると言っています。つまり、神のものを神に納めるという問題です。その時の硬貨には皇帝の像が刻まれていて、皇帝に属することを示しています。それと同じく人間には神の像（似姿）が刻まれているので、神のものです。神に納める（与える）とは、人間が自分自身を与える、つまり、神を心を尽くして愛し、隣人を自分のように愛することなのです。

次の聖イグナチオの祈りは素晴らしいと思います「主よ、すべてを取ってお受け下さい。私のすべての自由も、記憶も、知性も、意志も。あなたがこれらを私にお与えくださったのですから、主よ、あなたにお返しいたします。すべてはあなたのものですから、どうぞ、御旨のままにお取り計らいください。ただ主の愛と恵みをお与えください。そのお恵みだけで私には十分なのです。アーメン」。

